

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-154	22-027	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Atypical working hours are associated with tobacco, cannabis and alcohol use: longitudinal analyses from the CONSTANCES cohort 非定型労働時間は喫煙習慣、大麻使用、飲酒習慣と関連する		
執筆者		
Hamieh N, Airagnes G, Descatha A, Goldberg M, Limosin F, Roquelaure Y, Lemogne C, Zins M, Matta J.		
掲載誌		
BMC Public Health. 2022 Sep 29;22(1):1834. doi: 10.1186/s12889-022-14246-x.		
キーワード	PMID	
非定型労働時間、 喫煙習慣、 大麻使用、 飲酒習慣、 縦断研究	36175874	
要 旨		
目的： 非定型労働時間による喫煙習慣、大麻使用、飲酒習慣、砂糖および脂肪摂取のリスクを縦断的に検討する。		
方法： フランスの勤労者約 10 万人を対象に 2012-7 年の喫煙習慣、大麻使用、飲酒習慣、砂糖および脂肪摂取量を毎年調査した。自己申告によるベースライン時の夜勤、週末勤務、変形労働時間を非定型労働時間とした。一般化線形モデルにより非定型労働時間の喫煙、大麻、飲酒、砂糖および脂肪摂取のリスク（オッズ比(OR)）を算出した。		
結果： 夜勤は女性の禁煙率が低く再喫煙リスクが高かった (OR; 0.81,1.25)。また、男性の大麻使用リスク上昇(OR;1.46-1.54)、男女ともに飲酒リスク上昇(OR;1.12-1.14)を認めた。週末勤務は女性の禁煙率が低く (OR;0.89-0.9)男女ともに飲酒リスク上昇 (OR;1.12-1.19) を認めた。また非定型労働時間は砂糖および脂肪摂取率が低かった。		
結論： 非定型労働時間が薬物使用等に及ぼす影響を公衆衛生政策や臨床等で考慮し、予防啓発する必要がある。		